

# ジョブフェスに参加して

8月8日に就業・生活支援センターひろば主催の障がい当事者向け就労支援の催し「ジョブフェス」が中小企業センターで開催されました。ワークショップようていからは6人が参加しました。そのうち4人の感想をききました。それぞれの強みを活かし、就職目指してがんばっています。



「無人島に何をっていききたいか?」ということをお話し合うコンセンサスゲームでは、人それぞれの意見があって興味深かったです。今回を通して自分の就職に対する目標の再確認ができたように思います。(Mさん)

グループワークでは話したことが相手にうまく伝わらなかった感じがしました。もっとコミュニケーションをうまくとりたいです。(Uさん)

コンセンサスゲームや意見発表のグループワークに参加しました。体験してみても気づいたことが多くあり、自分を知るためにも参加して良かったと思いました。(Iさん)

今回参加して、新しいことにチャレンジする意欲がわきました。目標に向かってこれからがんばれそうです。(Oさん)

## その62 絆 (ほだし)

精神科医 土田正一郎の



これまで知らなかったことを知るの、かなり嬉しいことである。年を取るとそういうことが少なくなるので、悲しいことである。本当は世界は発見に満ち溢れているのに、いつの間にかそれをやめてしまっているから。  
先日ある研修会で「絆」という言葉の別の読み方を教えてもらった。「ほだし」である。国語辞典で調べてみると「①馬の脚をつなぐ縄。②心や行動の自由を束縛するもの。」とあった。そうか絆を結ぶのは、覚悟がいるってことなのか。

### 各事業報告～8月末現在

障がい者就労支援事業所 ワークショップようてい	契約/移行4人、B型21人 見学/8人、体験/0人
グループホーム よろこび	利用者数 21人 見学/1人、体験/1人
K. S. C. Juntos	当事者選手 13人 サポートスタッフ 18人
◆法人会員 正会員21人、賛助会員 団体6 個人76人	
◆今年度寄付金 のべ7人 59,880円	
◆寄付物品 牛乳パック	

**編集後記** 今年度から通信ともにの編集委員に加わったなえむらです。よろしくお願いします。先日、雑誌の付録のリュックの破れを直していたら、直していた縫い目がわからなくて難儀しました。なぜ難儀したか、それは老眼だからです。見えることの大切さを実感したできごとでした。これから目を大切にしようと思います…(なえむら)

# 通信 ともに

第75号  
2019年9月23日発行  
認定NPO法人とともに

住所 〒044-0053  
北海道虻田郡倶知安町北3条西2丁目1-1  
でんわ (0136) 55-5828  
FAX (0136) 55-5829  
Eメール info@npo-tomoni.com

ホームページ <http://www.npo-tomoni.com> ブログ <http://blog.canpan.info/npotomoni/>

### 今月の一枚



夏を締めくくる花火  
〜ふゆいっしょにふるさとまつり〜  
\*1

8月14日 京極中学校にて撮影

## 清水基金助成の自動車納車



社会福祉法人清水基金さまからの助成金を活用し、トヨタカローラ札幌に発注していた自動車が8月7日に納車しました。  
この「トヨタ・ノア」は8人乗りで、ワークショップようてい利用者さんの販売や研修での送迎、および徒歩通所が困難な方の送迎に活用していきます。清水基金さまにお礼申し上げます。ありがとうございます。



後部スライドドアは全自動  
いつも送迎利用して下さるOさんも  
「乗り心地がいい」「ユーティリティ



運転補助装置がついているので、  
足が不自由でも運転できます。

わっくわくまつりの詳細は次号に掲載予定です

## 障がい者雇用に関する議論～中小企業家同友会

8月9日、倶知安町中小企業センターで開かれた北海道中小企業家同友会しりべし・小樽支部「障がい者いきいきフォーラム\*2」例会に当法人の小林理事長がパネリストとして出席しました。テーマは「会員企業の実践報告から、障がい者雇用を考える」で、障がい者を20年あまり雇用している、株式会社山下水産（寿都町）代表取締役の山下邦雄氏とともに報告し、参加者10人で語り合いました。

小林理事長はワークショップようていの就労移行支援で就職した利用者が全員就労を続けていることに触れ「利用者と雇用先のマッチング」が大切だと話しました。利用者の特性と雇用先の希望が合うためには本人がどのような仕事をしたいのかを意識してもらう。本人がしたいと思った仕事を支援員と一緒に探していき、もしなければ、ないという現状を知ってもらうことも重要だということです。

また自立支援協議会における就労支援部会の取り組みを説明し、この地区では就労支援に向けたつながりがあることを強調しました。

このあと出席者とのディスカッションでも積極的な質問や意見が相次ぎ、熱気のある会でした。

例会は後志管内で随時開催され、同友会会員にとって障がい者雇用に関する情報交換の貴重な場です。



障がい者雇用の実践事例報告  
しりべし・小樽支部フォーラムが例会  
「倶知安しりべし・小樽支部障がい者いきいきフォーラム」は、8月9日に倶知安町で例会を開催。10人が参加し



きつかけに、先職職員によるマンツーマンサポート体制を構築したことを説明。障がい者と支援する職員双方の成長につながったほか、従業員と真剣に向き合う社風が口コミで広がり、求人への応募が増えました。  
小林氏は、就労支援サービスの解説ならびに、自社の就労移行支援を利用して就職した利用者9人全員が現在も働いている事例を報告。「利用者本人の希望と選択を尊重し、企業とのマッチングを重視した取り組みが定着につながっている」と語りました。  
続いて、出席者全員でディスカッションを行い、障がい者雇用への理解を深めました。

右から山下氏、理事長、コーディネーターの小笠原俊介氏（社会保険労務士）

9月15日発行の「中小企業家しんぶん」にも取り上げられた

## 利用者数増加～経営改善の見通し

第72号でワークショップようていの利用者減による減収減益をお伝えしました。各方面にご心配をおかけして申しわけありません。

今年度4人の新規利用登録があり、訓練等給付費収入が向上しました。また就労移行支援事業の新規就職者も今年度2人誕生し、事業開始以来の就職者数は10人を超えました。さらに経営改善と支援力向上を目指していきます。みなさまのご支援を引き続きよろしくお願いたします。

	平成31年3月	4月	令和元年5月	6月	7月	8月
利用登録者数						
・就労移行支援	2人	4人	3人(1人就職)	4人	3人(1人就職)	4人
・継続支援B型	18人	19人	19人	19人	21人	22人
一日平均利用数						
・就労移行支援	1.6人	2.0人	1.8人	2.7人	2.6人	3.6人
・継続支援B型	10.9人	11.6	12.4人	11.9人	13.0人	11.7人
訓練等給付費						
・就労移行支援	274,310円	312,140円	267,920円	381,560円	392,530円	471,990円
・継続支援B型	1,662,310円	1,878,040円	1,989,860円	1,564,540円	2,216,770円	1,876,562円

## 障がい者就労支援事業所ワークショップようてい 夏まつりの出店ラッシュ

### 8月14日 京極町ふれあい広場



手づくりのキーホルダーやノンホールピアス（耳に穴がなくても使えるピアス 写真右から2番目）が人気でした。主催の京極町社協のボランティアさんが浴衣の着付けサービス\*3で職員も着てみました（写真右）。西郷どんみたい。

### 8月25日 くっちゃん福祉まつり



今年はいつもと比べて気温が低く、過ごしやすい天候でした。たくさんの方が来られ、販売も順調。農業部はこの日のために早朝から収穫作業をしました。今回は総額約5万6千円の売り上げがありました。ありがとうございます。

## 障がい者就労支援事業所ワークショップようてい 看護学生の体験実習

今年も5月、6月、8月に旭川厚生看護学校の学生さんが体験実習に来ました。学生さんは「みなさん優しくとても良かったです」と話してくれました。

過去にも卒業した実習生が倶知安の病院に勤務している方もいます。夢に向かってがんばってくださいね！



## 障がい者就労支援事業所ワークショップようてい グループホーム よろこび 性について真剣に考える～法人内研修

8月の法人研修は、性について後志管内で勉強会や情報交換をしている「おたまじゃくしとかえるの会」の方を講師に、性教育を中心とした障がい者の性を考えました。

自分が学生のころの性教育は中高生時代で学ぶのが一般的でしたが、講師の話では幼少期であっても、科学的に性のことを学ばせることが大事だと話していました。そのためにも相談できる環境づくりと、親子で向き合って話せる空間づくりが大切であることを知りました。

最近ではイラストなどでわかりやすく解説した本があるということで、障がい者の方にも学んでもらうための工夫が大切だと感じました。（すがわら）

